企画展「地球環境と立山の自然」開催によせて

晴れた日に富山市の市街地から見える立山連峰は平野の東側に立てられた大きな屏風のように見えます(図 1)。立山では標高とともに気象や大気の環境が変化します。

当館や立山カルデラ砂防博物館の学芸員、富山県立大学、富山大学、九州大学の研究者が連携し、この立山の気象や環境を調べています。立山の気象は平地と比べてたいへん厳しく、霧や結露などによって観測機材が正常に働かなくなったり、雨や雪によって道路が閉鎖され、調査に行けなくなったりすることもしばしばあります。このような状況の中で行ってきた環境調査により
①立山の大気はたいへんきれいで、硫黄酸化物や窒素酸化物などの大気汚染物質の濃度は街の中と比べるとかなり低いこと、②立山に降る雨に含まれる酸性物質の濃度も平野と比べて 1/2 以下になっていること、③アジア大陸から大気が流れてきた時、室堂平では強い酸性の霧が出ることがあること、④積雪を調べると冬の間の黄砂や汚染物質の輸送が見えること、など様々なことが分かってきました。

さらに、立山の大気環境を調べることで、広くアジア地域の上空の大気環境の変化をも調べられる可能性が見えてきました。

これらの研究から分かってきた立山の大気環境と気象について 4 月 29 日から開催する企画展で紹介します。

(2010 年 3 月　朴木　英治)

企画展「地球環境と立山の自然」
主催　富山市科学博物館、　共催　立山カルデラ砂防博物館
展示場所：富山市科学博物館　特別展示室(観覧には通常の入館料が必要です)
展示期間：平成 22 年 4 月 29 日～5 月 24 日

図 1　科学博物館屋上から見る立山連峰(2009 年 2 月 8 日撮影)